

公開実用 昭和63- 132601

⑬ 日本国特許庁(JP)

⑭ 実用新案出願公開

⑯ 公開実用新案公報(U) 昭63-132601

⑮ Int.Cl.⁴
A 45 D 1/06

識別記号 庁内整理番号
C-7618-3B

⑰ 公開 昭和63年(1988)8月30日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑱ 考案の名称 ヘア-アイロン

⑲ 実 願 昭63-15040

⑳ 出 願 昭61(1986)3月17日

㉑ 実 願 昭61-39553の分割

㉒ 考 案 者 遠 藤 謙 治 福岡県田川郡方城町大字伊方4680番地 九州日立マクセル株式会社内

㉓ 考 案 者 婦 山 清 福岡県田川郡方城町大字伊方4680番地 九州日立マクセル株式会社内

㉔ 出 願 人 九州日立マクセル株式会社 福岡県田川郡方城町大字伊方4680番地 会社

明 細 書

1. 考案の名称

ヘアーアイロン

2. 実用新案登録請求の範囲

髪を挟持するための有効部3cを備えた一対の挟持板301、302の少なくとも一方に、本体1からの風を外部へ供給可能とするための貫通孔9を上記有効部3cを除く位置に穿設してなるヘアーアイロン。

3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

この考案は一対の型板間に髪を挟んで加熱することにより、髪をウェーブ形状やストレートヘアーにくせ付けするヘアーアイロンに関する。

〔従来の技術〕

従来、この種のヘアーアイロンとしては、例えば第9図に示すごときものが知られている（実開昭54-61789号公報）。これは、ヒータ加熱手段を内蔵する一対のアルミダイカスト製のウェーブ板50、50で髪を挟んでウェーブする

(1)

公開実用 昭和63- 132601

ようにしたものである。

また、第10図(a), (b)に示すように互いに相対向する中空のボビン51とクリップ52の対向面にそれぞれ波形断面の髪挟み面51a, 52aを形成し、この髪挟み面間で髪を挟んでボビン51から噴出する熱風で加熱してウェーブするようにしたものがある（実開昭56-106102号公報）。

〔考案が解決しようとする問題点〕

しかるに、上記した前者の従来では、アルミダイカスト製のウェーブ板50をヒータで直接加熱するものであるため、ウェーブ板50が使用可能な温度になるまで加熱する時間が長くなり、またウェーブ板50に至るまでの蓄熱量が大で、すぐに冷えにくいため、例えば、その板面に直接肌が触れると火傷を負いやすいし、さらに洗髪後、髪を十分に乾燥させた後でなければ使用できない等の不利不便な面がある。

その点、後者の従来例によれば、髪に熱風を吹き付けながらウェーブするものであるから、

(2)

すぐに温まって使用できるし、また、熱くなり過ぎることもないから火傷を負う危惧もなく、さらに、髪は半乾きの状態でもそれを乾燥しながら使用できる等の利点を有するが、未だ十分ではなく、次のような欠点がある。

すなわち、この熱風式のヘアーアイロンでは、熱風を中空のボビン51の長手方向の一端のソケット部からその内部に送り込み、該ボビン51の髪挟み面51aに開口した熱風吹出孔53から吹き出して髪を加熱するのであるが、該吹出孔53は、髪との当接個所に穿設されているため髪が挟持された時に、吹出孔53の端で髪を傷めやすく、また波形の髪挟み面51aのボビン51側の頂部54の一部を切り欠いてなるので切り欠いた部分で挟持された髪は、切り欠いていない部分で挟持された髪に比べ、くせ付けが良好に行えず、全体のヘアースタイルにむらが生じてしまうものである。

〔考案の目的〕

そこでこの考案は、髪を挟持するための有効

(3)

公開実用 昭和63- 132601

部を備えた一对の挟持板の少なくとも一方に、本体からの風を外部へ供給可能とするための貫通孔を上記有効部を除く位置に穿設することで欠点を解消しようとするものである。

〔実施例〕

以下この考案の実施例を図面に基づいて説明する。

第1図はこの考案に係るヘアーアイロンであり、本体1とスライド着脱自在なアタッチメント2の2枚の挟持体3（3₁、3₂）が枢支部4を中心として開閉自在となっている。この挟持体3₁、3₂には熱伝導の良いアルミニウム等の金属製から成る挟持板30₁、30₂が設けられ、この挟持板は中央部3cを除く個所に貫通孔9、9'が穿設されている。この実施例においては、非使用時には両挟持体3₁、3₂が枢支部4内のコイルばね5の付勢力により当接しており、指当て部6を操作することにより、該コイルばね5のばね力に抗して、挟持体3が開閉するものである。7はヘアーアイロン本体

に設けられたスイッチであり、OFF、冷風、温風の三段階切換となっている。

8は上挟持体31の両側端に植設されたガイド櫛であり、挟持体3に挟持される髪Hのガイドを行っている。9、9'は両挟持板301、302に穿設された風供給のための貫通孔であり、本体1からの温風や冷風を挟持板301、302を経て髪Hに供給している。

枢支部4は第2図(a)、(b)に示すA-A'断面図よりわかるように上挟持体31側に連設した外ピース111を下挟持体32側に連設した中ピース112とから成り内部に巻回方向の異なる2本のコイルばね51、52を有し、中ピース112の中央壁12に固定された両コイルばね51、52がそれぞれ外ピース111側に延出し、固定されている。すなわちコイルばね5は両挟持体31、32を当接する方向へ付勢する作用と枢支部4の中ピース112の軸心14を外ピース111に対して相対的に移動自在とする作用を兼ね備えている(第2図(b)参照)。

(5)

公開実用 昭和63- 132601

第3図はこの考案に係るヘアーアイロンのB-B断面図であり本体1側からの温風もしくは冷風がアタッチメント2側へ供給されている状態を示している。21はヒータであり、温風を供給する際発熱する。

上挟持体3₁と下挟持体3₂の挟持板30₁、30₂はそれぞれの髪Hとの対向面10₁、10₂が円弧状に形成されており、有効部となる中央部3c付近に貫通孔9を有しておらず、該中央部3c付近のみ実際の挟持に有効な個所として当接可能となっている。

髪Hは、この挟持板30₁、30₂の中央部3cに当接、挟着され、使用の際には髪Hを上記温風により加熱された中央部3cに挟着したままの状態に髪Hと挟持体3を相対的に移動させることで、ストレートヘアーを形成するものである。髪の挟持に有効な部分すなわち、中央部3cは髪のすべりや保護を勘案して、摺動抵抗を小さくするために、表面に光沢仕上げやフッ素樹脂加工などの処理を施している。

貫通孔9はヒータ21により加熱された温風を吹き出すためのものであり、温風は髪Hに熱を与えた後挟持板30₂に穿設された貫通孔9'を通過し、外部へ放出される。本実施例では、貫通孔9'の他に温風を外部に放出させるための貫通孔9''を下挟持体3₂に穿設しているが、この貫通孔9''は特に必要ではなく、この貫通孔9''がなくとも貫通孔9あるいは9'を通過した温風は両挟持体3₁、3₂の両側部の間隙L₁が十分に広いため、該両側部から外部に放出可能である。このことは例えば大量の髪を挟持した場合であっても髪Hとの対向面10₁、10₂の両側部に温風の逃げ空間を得られることを意味しており、本体1内の風供給が行なえる。また挟持体3の両側部から温風が放出されると、肌に直接温風が当り火傷などをすることもない。

ガイド櫛8は第4図に示すように上挟持体3₁の両側に長手方向に沿って植設されており、挟持板30₁、30₂の髪当接個所3cに髪Hが

公開実用 昭和63- 132601

進入する前に整髪し、温風による予熱が行われるものである。ここで第3図に鎖線で示すようにヒータ21の位置を偏倚させると、温風による予熱を経て髪当接個所3cを通過した髪Hがヒータから離れた位置からの風により冷やされ、ヘアーセットを効果的に行うことができる。

〔他の実施例〕

上述したように下挾持体30₂の貫通孔9は特に必要とせず、第5図は本考案の他の実施例であり、下挾持体31₂に貫通孔を全く有していないヘアーアイロンを示すものである。下挾持体31₂の挾持板32₂は、上述の実施例と同様にアルミニウムなどの金属板であるが、貫通孔をなくし、髪との摺動をより良好にしようとするものである。上挾持板30₁に穿設された貫通孔9からの温風は髪Hおよび下挾持板32₂に熱を与えた後は髪Hを通過し、外部に放出される。下挾持体31₂に設けられた挾持板32₂は円弧状である必要はなく、平板状でも良く、要するところ髪Hに当接し、挾着され

(8)

る所に貫通孔を設けていなければ本考案の目的は達せられるものである。よって第6図に示すように、上挾持板33に突起33aおよび該突起33aに当接される下挾持板34の対向箇所34aを除く部分に貫通孔9を穿設した実施例でも考えられる。

第7図は本考案の更に他の実施例であり、ガイド突起35の上面35aを貫通孔36の面よりも高く設定しているので貫通孔36に髪Hが当り、傷むのをより防止でき、しかも髪Hを上記ガイド突起により整髪しながら温風が供給されるのでより良好なアイロン効果を得ることができる。37は貫通孔36を通過した空気の循環を促進するための風放出孔であり、38は有効部である。

以上の実施例においては、ストレートヘアーを形成するためのヘアーアイロンについて説明したが、第8図に示すように波形のヘアーを形成するためヘアーアイロンについても実施できるものである。

公開実用 昭和63- 132601

この実施例の場合、両挟持板40、41の各頂部40₁、41₁と谷部40₂、41₂がそれぞれ髪Hを当接挟持するものであり、傾斜面42には貫通孔43を穿設している。該髪当接個所40₁、40₂、41₁、41₂には貫通孔を穿設していないので、髪Hが傷むこともなく、しっかりした波形のアイロンヘアーをセットすることができ、また、傾斜面42には両挟持板40、41が当接しないように間隙dを形成したので髪Hにより貫通孔43が完全に塞がれるのを防止できる。

以上のようにこの考案によれば、髪を挟持するための有効部3cを備えた一对の挟持板30₁、30₂の少なくとも一方に、本体1からの風を外部へ供給可能とするための貫通孔9を上記有効部3cを除く位置に穿設したので、髪が貫通孔により傷むことがなく、またしっかりとしたヘアーセットを行うことができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図はこの考案に係るヘアーアイロンを示

00

す分解斜視図、第2図(a)、(b)は枢支部の内部を示す断面図、第3図は挾持体における風供給状態を示す断面図、第4図はこの考案に係るヘアアイロンの挾持体の平面図、第5図および第6図は他の実施例を示す断面図、第7図は他の実施例を示す斜視図、第8図は更に他の実施例の挾持体を示す断面図であり第9図および第10図(a)、(b)は従来例を示す断面図および斜視図である。

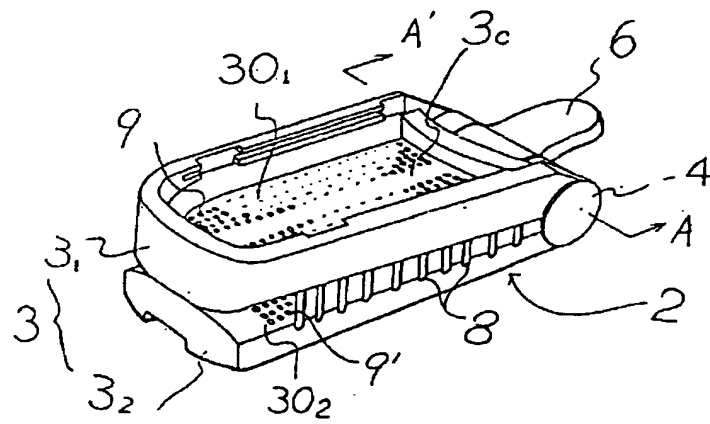
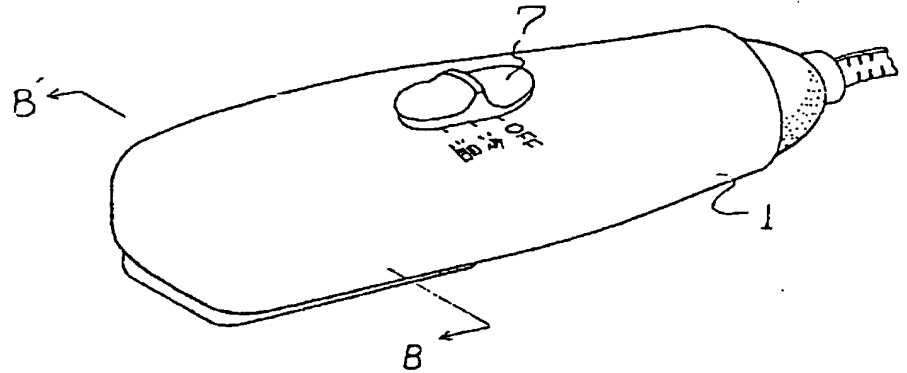
1…本体、3c…有効部、9…貫通孔、30₁、30₂…挾持板。



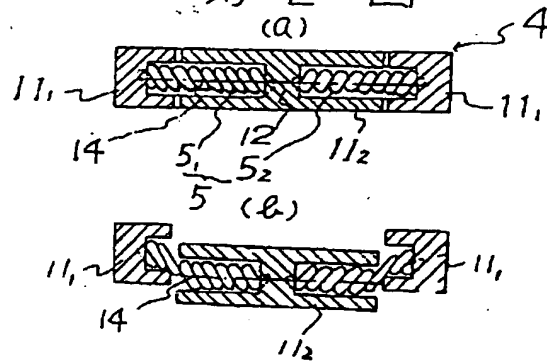
出願人 九州日立マクセル株式会社
代表者 佐 藤 誠 吾

公開実用 昭和63- 132601

第 1 図

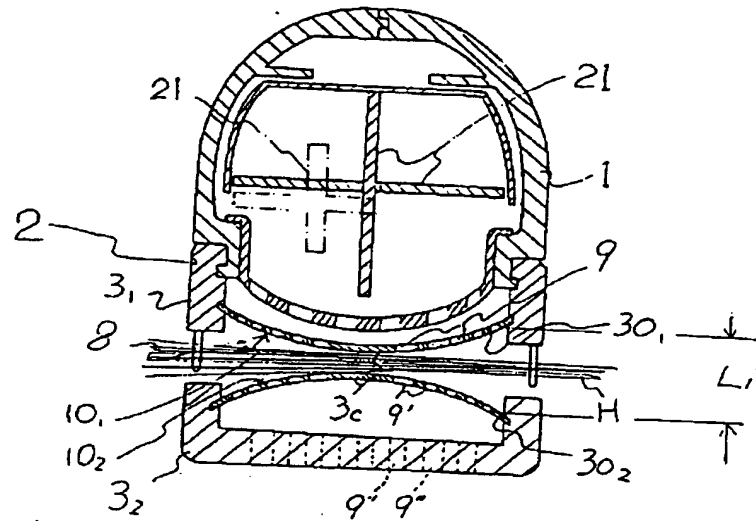


第 2 図

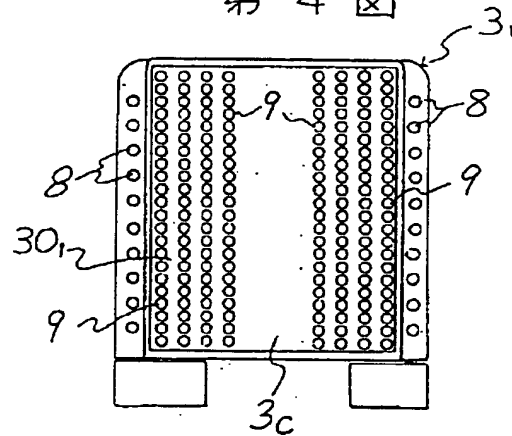


九州日立マクセル株式会社
佐藤 誠 吾

第 3 図

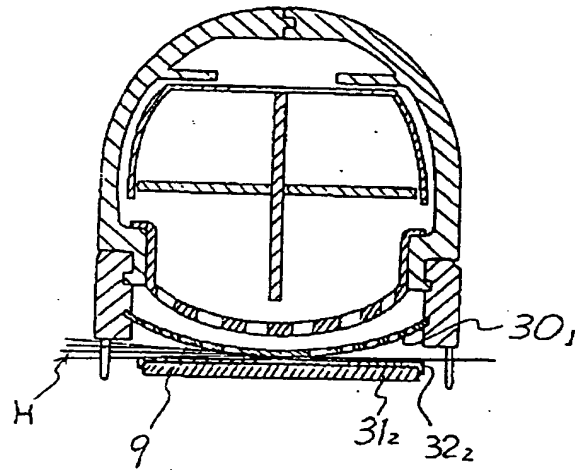


第 4 図

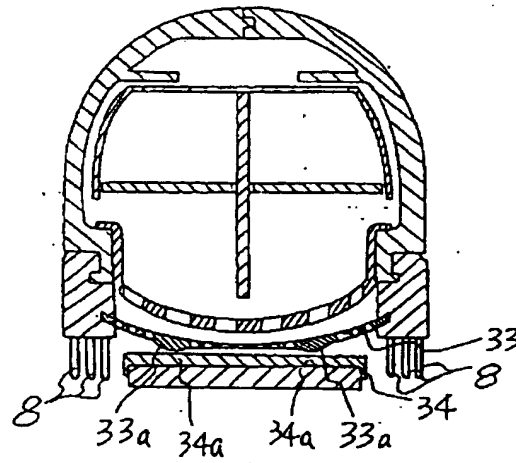


公開実用 昭和63- 132601

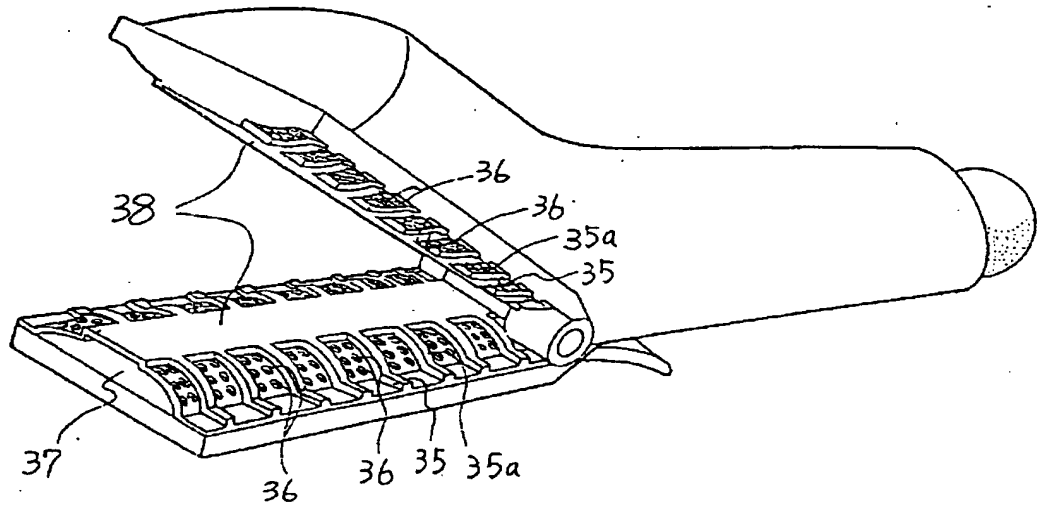
第 5 図



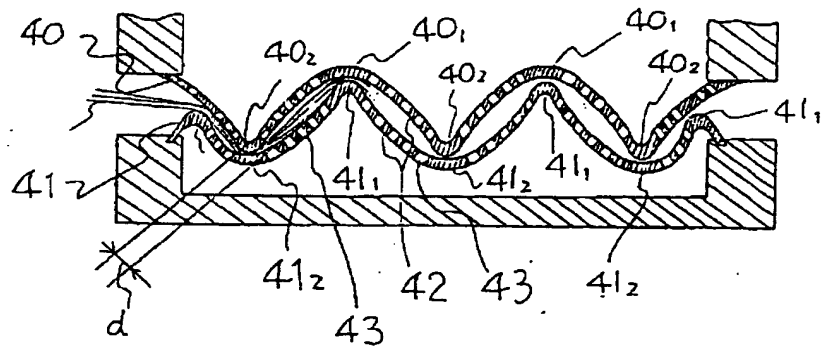
第 6 図



第 7 図

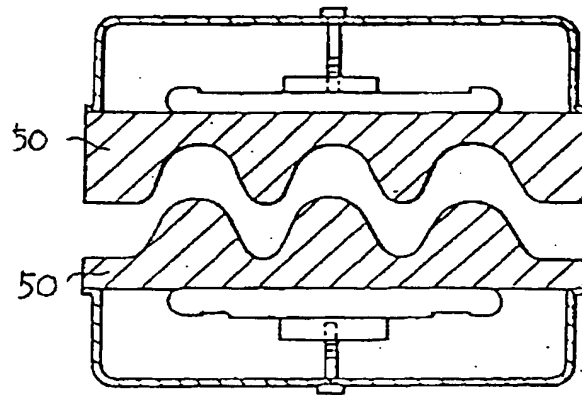


第 8 図

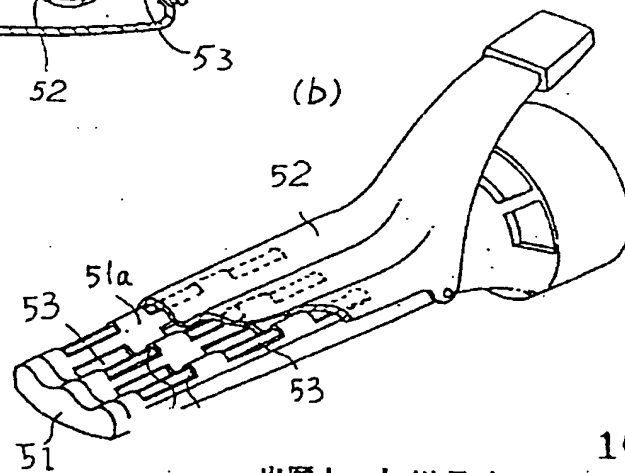
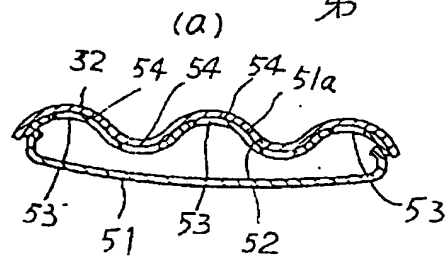


公開実用 昭和63- 132601

第 9 図



第 10 図



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☒ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.